

項目	確認事項	届出内容
<b>基本情報</b>	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107573
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップⅡ
	学部・研究科等名	現代社会学部社会システム学科
	担当教職員名・役職	倉持史朗：教授
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	4
	受入企業等数	4
	受入企業等名	(社福) 健光園 高齢者総合福祉施設 ももやま (社福) 京都府社会福祉事業団 児童養護施設 桃山学園 (社福) 京都福祉サービス協会 総合福祉施設 修徳 (社福) 南山城学園 障害者支援施設 凜
	産学協議会の整理上の類型	4.タイプ3 (専門活用型インターンシップ)
キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動	
	7.高学年(大学3年次～4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動	
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
<b>要素①</b>	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	近年の日本社会は少子高齢化が進み、人口減少による地域コミュニティの弱体化などが指摘されて久しい。一方でノーマライゼーションやインクルーシブ社会といった理念の下、年齢、性別、国籍、信仰などは言うに及ばず、障がいや病気の状態にあっても自分たちの希望する地域や居住空間で生活を営み自分らしく生きていくことが当然の権利だと考えられるようになった。私たちの地域生活や職業キャリアなどにおいて、多様性をまとめた他者と関わり、相互に理解を深め、時に支え合う行為は日常の風景になっていくであろう。 この授業は、上記のような理念を実現する担い手としてさまざまな福祉の現場に赴き、そこでの生活者の様子や社会参加の営みを理解する。さらにニーズに応じた支援を考え、実践する経験を通じてインクルーシブ社会実現のための社会的な課題への考察を深めることを目的とする。

項目	確認事項	届出内容
<b>要素②</b>	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	現代社会学部や社会システム学科の専門分野の学びが社会でどのように実践されているかを体験し学ぶ科目である。知識として身につけた人権や他者尊重など思想・法令・理念等を福祉分野の実践現場における実習を通して体現する力を養う。本科目は選択科目・2単位で、応用各論（キャリアデザイン科目）に属する。
<b>要素③</b>	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	

項目	確認事項	届出内容
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	4回の事前学習で、インターンシップの目的や参加する意義の理解、実習に対する心構え、実習を通して何を得たいと思っているか等の確認を行う。具体的には、 オリエンテーション・実習の選定（学内1回1.5時間） 実習先をふまえた個人票・実習計画等の作成(学内2回各1.5時間) 実習先の事前オリエンテーション(学内1回1.5時間)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習後に事後学習を行う(学内4回各1.5時間) 1月に学科での報告会を行う
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	「インターンシップII」担当教員が実習中に実習先を訪問し、実習生と面会して状況を確認する。受入れ先企業担当者に、実習生の取り組み状況を確認する。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前課題、最終報告会レポートにより効果を定性的に確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前事前指導：4日間</li> <li>・（実習）高齢者分野の事業所：4日間</li> <li>・（実習）児童or 障がい者分野の事業所：4日間</li> <li>・実習後事後指導：4日間</li> </ul>
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターンシップII」オリエンテーション 実習前の事前指導：1.5時間×4日間＝6時間</li> <li>・高齢者分野の事業所：4日間・各日7時間</li> <li>・児童or 障がい者分野の事業所：4日間・各日7時間</li> </ul> 7時間×8日間＝計56時間 毎回の実習後に事後学習を行う。 1年の取り組みの成果をまとめ発表する。 実習後事後指導：1.5時間×4日間＝6時間 報告会 2時間

項目	確認事項	届出内容
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	専任教員が事前に実習先と共同で実習内容を調整し、事前事後指導にもかかわる。また 実習中も本学教員と受入れ企業担当者が面談し状況を確認して、受入れに係る負担軽減に努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2023&amp;value(semekikn)=1&amp;value(kougicd)=421300&amp;value(crclumcd)=9999999999">https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2023&amp;value(semekikn)=1&amp;value(kougicd)=421300&amp;value(crclumcd)=9999999999</a>
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	現代社会学部・国際社会システム研究科事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0774-65-8543
	メールアドレス	<a href="mailto:gensha-t@dwc.doshisha.ac.jp">gensha-t@dwc.doshisha.ac.jp</a>